

第2回泌尿器抗加齢医学研究会プログラム

2010年11月28日(日) 13:30~16:50

13:30~14:00 (発表25分・質疑応答5分)

『メタボリックシンドロームと自然炎症』

演者 小川 佳宏 (東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学)

座長 大家 基嗣 (慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室)

メタボリックシンドロームの基盤病態として慢性炎症が注目されている。慢性炎症では、長期にわたるストレス応答のために実質細胞と多様な間質細胞の相互作用が遷延化し、適応の破綻により不可逆的な「組織リモデリング」を生じて臓器の機能障害に至る。例えば、肥満では脂肪組織に浸潤したマクロファージと脂肪細胞の複雑な相互作用に特徴付けられる「脂肪組織リモデリング」がもたらされる。本講演では、肥満の脂肪組織における「脂肪組織リモデリング」に焦点を当てて、内因性リガンドである飽和脂肪酸と病原体センサーTLR4から構成される「自然炎症」に関する最新の知見を概説する(J. Leukoc. Biol. 88:33-39, 2010)。

14:00~14:30 (発表25分・質疑応答5分)

『泌尿器・性機能のウイメンズヘルス』

演者 大川 玲子 (国立病院機構千葉医療センター産婦人科)

座長 永井 敦 (川崎医科大学泌尿器科学教室)

14:30~15:00 (発表25分・質疑応答5分)

『閉経後の女性はなぜ元気?』

演者 安井 敏之 (徳島大学大学院保健科学部門生殖補助医療学分野)

座長 大山 力 (弘前大学大学院医学研究科泌尿器科学講座)

女性は男性よりも長生きである。この理由の一つに性ステロイドホルモンの影響が挙げられる。閉経前の女性は内因性のエストロゲンによって種々の疾患の発生から守られている。閉経によってダイナミックなホルモンの変化がみられるが、閉経後の女性においても微量のエストロゲンは骨やインスリン抵抗性などに関係している。さらに、周閉経期にホルモン補充療法を施行した場合、その効果は骨、血管、脂質代謝、糖代謝に影響する。女性が閉経後も元気でいられるのはホルモンの影響によるところが大きい。

15:00~15:20 休憩

15:20～15:50 (発表 25 分・質疑応答 5 分)

『排尿と酸化ストレス』

演者 松本 成史 (旭川医科大学腎泌尿器外科学講座)

座長 岡田 弘 (獨協医科大学越谷病院泌尿器科)

泌尿器領域において、加齢に伴う排尿障害は一般的な病態であり、症状症候群である下部尿路症状(LUTS)として様々に検討されている。近年 LUTS の一因として、加齢やメタボリック症候群関連因子等、修正可能な予防しうるリスク要因が関与すると報告されている。今回は、「排尿と酸化ストレス」と言うタイトルで、われわれの研究より得られた膀胱血流の変化とそれに伴う膀胱機能との関連、特に膀胱血流低下(膀胱虚血)、それに随伴する再灌流による酸化ストレス障害を中心に、＜排尿＞について私見を含めて報告したい。

15:50～16:20 (発表 25 分・質疑応答 5 分)

『ホルモン補充療法をはじめよう…DHEA の効能について』

演者 満尾 正 (満尾クリニック)

座長 堀江 重郎 (帝京大学医学部泌尿器科)

DHEA (Dehydroepiandrosterone)はテストステロンの前駆体であるだけでなく女性ホルモンの原料ともなる性ホルモンの要ともいえるホルモンの一種であるが、加齢と共に体内産生量が減少する傾向にありこれを適切に補充することが抗加齢医療においては極めて重要な治療行為となる。今回は DHEA 補充療法によってどのような効果があるかについて報告したい。

16:20～16:50 (発表 25 分・質疑応答 5 分)

『PDE5 阻害薬の裏ワザ』

演者 堀江 重郎 (帝京大学医学部泌尿器科)

座長 小川 良雄 (昭和大学医学部泌尿器科学教室)

PDE5 阻害薬は、もちろん ED 治療の要であります。ED のときだけに服用する on demand 治療が一般的だと思います。しかしこの PDE5 阻害薬は強い抗酸化作用を持ち、血管内皮機能をたかめることが最近明らかになってきました。むしろ最強の“サプリメント”ともいえる PDE5 阻害薬の優れた「裏ワザ」をご紹介します。